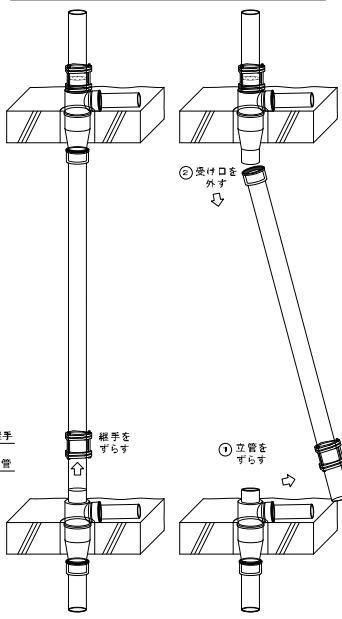
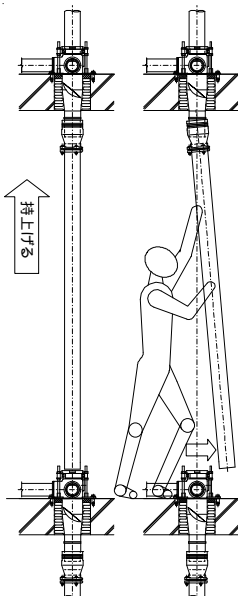


最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 11211102

性能分野	耐久性・耐用性
大分類	設備機器・配管の更新・点検の容易性確保
中分類	設備機器・配管の更新・点検の容易性確保
技術の名称	排水立て管更新工法
改修技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> 従来の排水立て管の配管方法は、下層階から継手の受口に配管を差し込み、積み上げるシステムのため、排水立て管を切断することなく更新することは不可能であった。排水立て管更新工法は、排水立て管を切断することなく更新が可能な工法である。この工法にはとして「スライド継手工法」及び「やりとり継手工法」が開発されている。 スライド継手工法にて採用する特殊継手は、従来型の特特殊継手の上部受け口を突合せ方式に変更した継手である。スライド継手との組合せにより、立管を切断することなく立管の更新が可能になる。立て管の更新作業は、スライド継手を上方にスライドさせた後、立て管受け口に付けられているゴム輪の可とう性を利用して、立て管の下端側を水平方向に移動することで、立て管の抜き差しを行う。 やりとり継手工法は、更新時にくぐり代（クリアランス）を確実に確保するために、考案された継手を使用する工法である。立て管を上部に持ち上げ、スライド継手と同様に立て管の下端側を水平方向にずらし、立て管を受け口から外す。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>スライド継手工法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ボルトを緩めて継手をずらす 立て管をずらす 受け口を外す </div>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>やりとり継手工法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 立て管を持ち上げる 立て管をずらす 受け口を外す </div>  </div> </div> <p>(出典：共用排水立て管の更新方法についてのモデル実験による検証（その２） (社) 長寿命建築システム普及推進協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事期間（施工準備～施工～検査～施工完了） 従来配管からスライド継手工法、やりとり継手工法への改修：5～6 ヶ月 スライド継手工法、やりとり継手工法から排水立て管の更新：3 日間 / 1 系統 改修後の性能 耐久性向上

共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（ 劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2 年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12 年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13 年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
		（補足） 共用部に排水立て管がある場合にのみ適用できる可能性がある	
常にセットで利用される技術	< 当技術を適用する前に実施する調査診断技術 > 設備配管の腐食調査（ 21114101 ） 設備配管のサンプリング調査（ 21114102 ）		
技術が適用される建物の部位	共用部分 （ 躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部 ） 専有部分 （ 設備・配管 その他専有部分 ） [設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 （ 排水管 ） 注意すべき主な法令（ 下水道法 ）]		
団地で適用した場合のメリット	住棟まわりの土地が利用できること（仮設以外）() まとまった土地が利用できること（仮設以外）() 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()		
足場の設置が必要	必要 不要 ()		
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ()	
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()	
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限() 日照・採光等への影響()	
当該技術が利用される工事	計画修繕工事（ 劣化の補修 性能の向上 ） 耐震改修工事（ 耐震性の向上 他の性能の向上 ）		
技術的境界			
参考資料	技術情報		
	価格情報		